

資料

## 漢字文化圏における漢文教材

——現行の中学校国語教科書所収の『論語』教材を通して——

古 珮 玲  
李 有 珠  
勘米良 祐 太  
勝 田 光  
劉 晏 君  
飯田 和 明

### 1. 調査目的

本資料の目的は、漢字文化圏における『論語』教材のあり方を、比較・検討することにある。

漢字文化圏<sup>①</sup>における漢文<sup>②</sup>教育の中で『論語』は必ず取り上げられる教材である。本資料では教材としての『論語』の学習目標・内容を明らかにするため、教科書の学習手引き・教材内容を調査対象とした。この調査をもとに、漢字文化圏における中学校の国語教科書において、『論語』のどの部分がよく取り上げられ、そしてどのように扱われているのかを考察するための資料とする。

台湾では1990年代前半の「課程標準」<sup>③</sup>（日本の学習指導要領に相当するもの）の改訂により、今まで軽視されていた台湾の歴史・地理・社会・言語・芸術を公教育の内容に取り入れるようになり、いわゆる教育の「本土化」<sup>④</sup>が進められるようになった。そして、2003年に「国民中小学九年一貫課程綱要」（これを以下「九年一貫」と略記）が実施され、全面的な教育課程の改革が行われている中で、この「本土化」の方向性は「九年一貫」にも受け継がれているといわれている。つまり、現在の学校教育においては、台湾における多様な文化や風習の浸透、生活運用などの学習が重要視されていると考えられる。

一方、高等学校における「普通高級中学課程綱要」も「九年一貫」の実施に合わせるために2001年から改訂を始めた。しかし、中国古典文化を代表する『論語』『孟子』の科目の必修・選択化や文言文（漢文）の教材数の増減をめぐる議論<sup>⑤</sup>のため、実施するに当たって行き詰りが生じているのが現状である<sup>⑥</sup>。そして、その改訂要点を提示した柯慶明（2007）<sup>⑦</sup>によると、国語科においては現代漢語（口語文）の学習を中心にすべきであるという。よって、中国古典の学習意義の揺れに直面することが考えられる。

以上のような背景を踏まえて、台湾における文言文（漢文）教育の独自性を見出すことによって、中国古典学習の意義を追究する必要があると考える。

そこで、本資料は『論語』を取り上げ、台湾における教材を調査対象の柱として、日本との比較を主な着眼点にする。そして中国及び韓国における教材は参照することにとどめる。

この作業には以下の狙いがある。

一つは漢字文化圏における漢文教育の特質や問題点を見出すことである。『論語』は中国で誕生したものでありながら、日本・韓国など、国境を越えて学校教育<sup>9)</sup>の中で使用され続けてきたものである。しかし、『論語』のどの部分が教材として採り上げられ、どのような学習が行われることが目標とされるのか、ということについては、それぞれの国・地域によって様々な点で相違が見られるはずである。その多様性を明らかにしていくことによって、台湾における特徴が現れることになると思われる。

もう一つは『論語』が漢字文化圏の中で、半ば普遍的に学校教育の中で扱われてきた理由を明らかにすることである。先述の台湾における論語・孟子の取り扱いをめぐる議論をはじめ、様々なかたちで現代社会における古典教育の意義が問われ議論されている。しかし、漢字文化圏における現行の中学校国語教科書において、『論語』は必ず取り上げられている。こうして取り上げられる具体的な理由を明らかにするために、四つの国・地域において共通している『論語』教材と取り扱い方の共通性を考察する。それによって『論語』の教材としての価値を、漢字文化圏の学校教育における共通教材という観点から再評価することが可能になると考える。

## 2. 調査の概要

台湾の調査対象は3社の中学校国語教科書、合計3冊である<sup>10)</sup>。これらの教科書は「九年一貫」に準拠して編集されたのである。日本の調査対象は5社の中学校国語教科書、合計5冊である。これらは平成17年度検定済みの教科書である。中国の調査対象は1社の中学校国語教科書、合計1冊である<sup>11)</sup>。韓国の調査対象は1社の中学校漢文教科書、合計3冊である<sup>12)</sup>。

以上の調査対象を表1のようにまとめた。

表1 調査対象（教科書）

国・地域	出版社	編者及び出版年	名 称
台湾	翰林出版（以下、「翰林」）	宋裕・蕭蕭ほか（2009年修訂1版）	『国民中学国文第一冊【一年級上学期】』
	康軒文教事業（以下、「康軒」）	董金裕ほか（2002年初版, 2009年第8版）	『国民国文課本第一冊（1上）』
	南一書局（以下、「南一」）	莊萬壽ほか（2008年初版, 2009年修訂版）	『国民中学国文第一冊【一年級上学期】』
日本	学校図書（以下、「学図」）	野地潤家, 安岡章太郎ほか（2005年検定済, 2010年印刷）	『中学校国語2』
	教育出版（以下、「教出」）	木下順二, 加藤周一ほか（2005年検定済, 2009年印刷）	『伝え合う言葉 中学校国語2』
	三省堂（以下、「三省」）	金田一春彦, 長谷川孝子ほか（2006年初版, 2009年印刷）	『現代の国語3』
	東京書籍（以下、「東書」）	三角洋一, 相澤秀夫ほか（2005年検定済, 2009年印刷）	『新しい国語2』
	光村図書（以下、「光村」）	宮地裕ほか（2005年検定済, 2009年印刷）	『国語3』
中国	人民教育出版社（以下、「人教」）	課程教材研究所 中学語文課程教材研究開発中心（2007年第2版, 2009年第2刷）	『義務教育課程標準実験教科書 語文 七年級上冊』
韓国	DONGWH A社（以下、「DONG」）	李相鎮ほか（2001年初版, 2009年第7刷）	『中学校 漢文1』
	DONGWH A社	李相鎮ほか（2002年初版, 2009年第6刷）	『中学校 漢文2』
	DONGWH A社	李相鎮ほか（2003年初版, 2009年第5刷）	『中学校 漢文3』

なお、各国・地域における『論語』教材の取り上げられ方を小・中等段階、それぞれにおいて概観する。

台湾においては、小学校では漢詩のみの取り扱いで<sup>(12)</sup>、『論語』教材は扱われていない。しかし中・高では取り上げられ、高校においては現行の学習指導要領（「普通高級中学必修科目国文課程綱要」（暫定版））では必ず『論語』教材を取り扱うように定められている<sup>(13)</sup>。また高校の選択科目として、「論孟選読」（『論語』『孟子』教材）という科目も設置されている。

一方、日本においては、小学校で『論語』教材を取り扱うのは、教科書出版社5社のうち東京書籍<sup>(14)</sup>のみであり、しかも付録に収められている。中・高ではいずれの教科書でも取り扱われるが、高校においては「国語総合」、「古典」の教科書において取り扱われる。

中国（ここでは「人教」を調査対象とする）においては、小・中・高校いずれの教科書においても一貫して取り扱われている。ただし、小学校では、『論語』の内容というより孔子の人物紹介を主な内容としている<sup>(15)</sup>。そして高校においては、「人教」の場合では必修科目として「必修1」（語文1）に『論語』教材が取り上げられているが、課外資料とされている<sup>(16)</sup>。そして選択科目としての「系列5」（文化經典読本）には一般的には『論語』教材が盛り込まれている。例えば、「人教」による『先秦諸子選読』、『中国經典文化研読』などの教科書では『論語』教材が見られる<sup>(17)</sup>。

韓国においては、まず小学校では漢字教育が行われておらず<sup>(18)</sup>、漢文教育も行われていない。一方の中学・高校では選択教科としての「漢文」が存在する<sup>(19)</sup>。

次に、教科書を分析する際に用いた論語教材の分類の基準について述べることにする。台湾の「九年一貫」における「分段能力指標」<sup>(20)</sup>の基準を用いてその内容を分類した。その理由は、「康軒」の教師用指導書<sup>(21)</sup>の編集要旨に示されているように教材主旨は「分段能力指標」に基づいて編纂したためである。その中で挙げられている「分段能力指標」は「E：読む能力」及び「F：作文能力」の2項目であるため、今回の分類基準もこの2項目を参照にした。

次に調査方法について述べることにする。まず、六名の調査者によって各国・地域の『論語』教材の目標と内容を分析する。次に、個々の分類した結果をつきあわせて検証する。一致しない部分は協議して一致させる。

なお、「E：読む能力」の「分段能力指標」について作成委員である陳建明（2000）は、読む能力の指標作成においての基本理念は以下の8つの点を挙げている<sup>(22)</sup>。

- ①読む力を育て、言語能力を高めること（文章のあらすじ、語彙、作品の特徴・修辞など）
- ②読書の意欲、態度、習慣を養うこと
- ③辞書・ハンドブックを利用し、自主学習の力を高めること
- ④様々な読解方略を通して読書能力を発展すること
- ⑤言語の使用場面においての理解によって言語文字を精確に応用すること
- ⑥読書指導とパソコン媒体教育との融合を通して学習領域を広げること
- ⑦読んだ内容を整理し、問題解決の能力に転換させること

⑧読んだ後意見交流をし、異なる文化・民族を尊重し合う精神を養うこと

本資料ではこれらの基本理念を用いて「E-3-1」～「E-3-8」(表3)の概念を定義すると、以下の通りになる。

「E-3-1」：①の範囲に属し、言語文字(語彙)の意味の面においての理解のことを指す。

「E-3-2」：④の範囲に属し、様々な読解方略を通して作品を読み直すことを指す。

「E-3-3」：①の範囲に属し、文章の形式・表現のことを指す。

「E-3-4」：②の範囲に属し、様々な書物を比較して読む習慣のことを指す。

「E-3-5」：②の範囲に属し、主体的に価値のある様々な時代・地域を超えて、代表的な作品を読むことを指す。

「E-3-6」：③と⑥の範囲に属し、辞書、インターネットなどを通して調べ学習をすることを指す。

「E-3-7」：⑦の範囲に属し、生き方や学び方を身に付け、現代に応用できるよう学習し、さらにその内容を実行することを指す。

「E-3-8」：⑤の範囲に属し、文章全体においての文脈・意味を読み取ることを指す。

一方、各国・地域における教材の「学習手引き」の中で、「F：作文能力」の項目(F-3-1～F-3-9)について言及したのは台湾における1社の教科書(「康軒」)しかないため、本資料では「康軒」による教師用指導書で示された「F：作文能力」の「分段能力指標」(「F-3-7」)を取り上げ、残りの項目を省略することにする。

### 3. 資料の構成

本資料における分析は、調査対象とする四つの国・地域における教科書の構成に基づき、以下のように行うことにする。

まず、『論語』のどの部分がよく採り上げられ、どこに台湾の独自性を見出すことができるかを明らかにするために、各国・地域における教科書に掲載された『論語』教材を表2のようにまとめた(『論語』教材の原文は表3)。

本資料におけるもう一つの目標は、先述したように漢字文化圏における『論語』教材の取り扱い方の共通点と相違点(特に台湾における独自性)を見出すことである(結果は表9)。そのため、教材に示されている「学習手引き」を分類した(結果は表4)。

なお、台湾の教科書における「学習手引き」は本文前後に設けられている「学習重点」、「問題及び討論」を分析した(表5)。日本の教科書では本文の後ろに「学習の手引き」が設けられているため、それを参考にした(表6)。中国の教科書における「学習手引き」は本文の後ろに設けられている「検討及び練習」を参照した(表7)。

以上三つの国・地域は中学校の漢文教材が国語教科に収められており、『論語』教材も独立した一課として扱われている。その一方、韓国では漢文科は国語科とは別に独立した選択科目となっているため、国語教科書ではなく「漢文教科書」という名称が使用されている。漢文教科書の構

成は、まず「大単元」があり、その中に「小単元」が設けられている。そしてその「小単元」の中に複数の教材が収められている。『論語』教材は各「小単元」の中に一句か二句ほどの短い文章が掲載されている。なお、それぞれの「大単元」と「小単元」に「学習手引き」が設けられているため、これらを参照した<sup>(23)</sup>（表8）。

凡例：

1. 分段能力指標の表示は以下のようになる。

(1) E-3-1：E－読む能力，3－第3段階（中1～中3），1－指標内容の通し番号（表4）。

(2) この指標内容からさらに細分化された項目があるが，分類の際に重複する項目を避けるためにここでは取り扱わないことにする。

2. 表3～表7の分類番号についての例は以下のようになる。

例) TA①：T－台湾，A－「康軒」，①－通し番号（表5）。

KA①：中央教育振興研究所における大単元及び小単元の学習手引きをまとめたもの（表8）。

KA①－1：単元に設けられている学習目標の中の一つ（表8）。

表2 『論語』教材分布一覧表

国・地域	台 湾			日 本					中国	韓国
出版社 論語	翰 林	康 軒	南 一	学 図	教 出	三 省	東 書	光 村	人 教	D O N G
學而 (1)	○	○	○		○			○	○	○
學而 (4)									○	○
為政 (4)				○		○				
為政 (11)	○						○	○	○	
為政 (15)				○		○	○	○	○	
為政 (17)				○					○	
里仁 (17)									○	
里仁 (25)					○					
雍也 (21)										○
述而 (15)										○
述而 (21)	○	○	○						○	
泰伯 (7)									○	
子罕 (18)	○		○							
子罕 (27)									○	
顔淵 (1)										○
衛靈公 (20)							○			○
衛靈公 (23)		○		○	○			○	○	○
衛靈公 (29)						○				

表3 論語教材

篇名	教材原文（訓読） <sup>20</sup>
學而（1）	子曰く、 <u>学びて時に之を習ふ</u> 、亦た説ばしからずや。朋遠方より來たるあり。亦た樂しからずや。人知らずして慍らず、亦た君子ならずや。
學而（4）	曾子曰く、吾日三たび吾が身を三省す。人のために謀りて忠ならざるか、朋友と交りて信ならざるか、習はざるを傳へしかと。
為政（4）	子曰く、吾十有五にして學に志す、三十にして立つ。四十にして惑はず。五十にして天命を知る。六十にして耳順ふ。七十にして心の欲する所に從へども、矩を踰えず。
為政（11）	子曰く、故きを温めて新しきを知れば、以て師為るべし。
為政（15）	子曰く、 <u>学びて思はざればすなわち罔し</u> 。思ひて學ばざれば即ち殆し。
為政（17）	子曰く、由、女に之を知るを誨へんか。之を知るを之を知ると為し、知らざるを知らずと為す、是れ知るなり。
里仁（17）	子曰く、賢を見ては、齊しからんことを思ひ、不賢を見ては内に自ら省るなり。
里仁（25）	子曰く、徳孤ならず、必ず隣有り。
雍也（21）	子曰く、知者は水を樂しみ、仁者は山を樂しむ。知者は動き、仁者は靜かなり。知者は樂しみ、仁者は壽し。
述而（15）	子曰く、疎食を飯ひ、水を飲み、肘を曲げて之を枕とす。樂も亦其の中に在り。 <u>不義にして富み且つ貴きは、我に於て浮雲の如し</u> 。
述而（21）	子曰く、三人行けば、必ず我が師あり。その善なる者を選びて之に従ひ。その不善なる者にして、之を改む。
泰伯（7）	曾子曰く、士は以て弘毅ならざる可からず。任重くして道遠し。仁以て己が任と為す、亦重からずや。死して後に已む。亦遠からずや。
子罕（18）	子曰く、譬へば山を為るがごとし。未だ一簣を成さざるも、止むは吾が止むなり。譬へば地を平らにするが如し。一簣を覆すと雖も、進むは吾が往くなり。
子罕（27）	子曰く、歳寒くして、然る後に松栢の彫むに後るを知る。
顔淵（1）	子曰く、 <u>非礼視ること勿かれ、非礼聴くこと勿かれ</u> 、非礼言ふこと勿かれ。非礼動くこと勿かれと。
衛靈公（20）	子曰く、君子は諸を己に求め、小人は諸を人に求む。
衛靈公（23）	子貢問うて曰く、一言にして以て終身之を行ふ可き者有りやと。子曰く、其れ恕か。 <u>己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれと</u> 。
衛靈公（29）	子曰く、過ちて改めざる、是を過と謂ふ。

※下線は韓国の教科書による掲載部分。

表4 各国・地域の学習手引きの分類一覧表

国・地域 分段能力指標	台 湾	日 本	中 国	韓 国
E-3-1（口語文及び文語文の作品においての文言の意味を熟知してかつうまく応用する。）		JA①	CA①	KA①-1 KA②-1 KA③-1 KA⑤-1 KA⑥-1 KA⑦-1
E-3-2（様々な読解方略をうまく応用して自己の読書方法を発展する。）	TA⑤ TA⑦ TB⑥ TB⑦ TC⑤ TC⑦		CA③	
E-3-3（作品の創作の特徴，レトリックの技及び特色を鑑賞する。）	TA② TC①	JA③ JB① JC① JD① JD③	CA④	KA①-2 KA②-2 KA③-2 KA④-1 KA⑤-2 KA⑥-2 KA⑦-2
E-3-4（各種類の書物を広く読み，比較読みの習慣を養う。）		JB②		
E-3-5（主体的に古今東西及び郷土文学の作品を読み，読書の視野を拡大する。）	TA① TB① TC⑧			KA④-4
E-3-6（各種類の辞書・ハンドブック及びパソコン・インターネットをうまく応用し，情報を収集し材料を組み立て，広く読む。）				
E-3-7（主体的に物事を思考・探索し，読書の内容を整え，日常生活において，問題解決の能力に転換する。）	TA③ TB③ TB④ TB⑧ TC② TC④ TC⑥	JA① JB③	CA②	KA①-3 KA②-3 KA③-3 KA④-3 KA⑤-3 KA⑥-3 KA⑦-3
E-3-8（言語の使用場面に合わせ，語彙と文脈の間の転換を理解する。）	TA④ TA⑥ TB② TB⑨ TC③	JA② JC② JD②		KA①-4 KA④-2
F-3-7（巧みに修辞の技術を用いし，作品をもっと緻密で感動できるものにする。）	TB⑤			

※下線が引いてある部分は重複する分類である。

表5 台湾における教科書の学習手引き

教科書	分類	学 習 手 引 き
翰林 (A)	TA①	儒教の中で最も重要な經典名作『論語』を知ること。
	TA②	次第に文言文の句法、仕組みや表現方式に慣れること。
	TA③	努力し続け、根気よく続け、初めて成功する学習の過程で、正確な学習態度を養うこと。
	TA④	これら四つの章はすべて学習のあり方について論ずるものであるため、学生を啓発するものになっている。そのため、心をこめて精読することによって、必ずたくさん収穫することができる。
	TA⑤	他人との付き合いにおいて、善き者は従うべきだが、なぜ善からざる者もわが師になるのかを考えてみよう。
	TA⑥	「譬如為山」の文章では、学習の例になる他、何の事柄の例として挙げられるか、実例を挙げて説明しよう。
	TA⑦	現在の社会では自己アピールすることが重視されており、これは孔子の「人不知而不慍」という考え方と矛盾しているのかを考えてみよう。
康軒 (B)	TB①	孔子と『論語』が後世に与えた影響を知ること。
	TB②	本編の三つの文章における内包的な意味を理解すること。
	TB③	学習の楽しみを体得し、賢い人に会ったらよい手本として見習うこと。
	TB④	自分がしてほしくないことは他人にもしてはならない精神を養うこと。
	TB⑤	作文能力においては、自分の体得した道理を直接に陳述し、または対話形式で表現すること。
	TB⑥	なぜ「学而時習之」と「有朋自遠方來」は嬉しいことなのかを考えてみよう。
	TB⑦	他人と付き合う際に、善き者は従うべきだが、なぜ善からざる者もわが師になるのかを考えてみよう。
	TB⑧	十分に教えを体得し、日常生活で実行することによって、調和の取れる人間関係を維持する。
	TB⑨	「己所不欲、勿施於人」は他人に接して世に生きる際に実行すべき基準だが、生活においての実例を挙げて説明しよう。
南一 (C)	TC①	孔子語録の形式を知ること。
	TC②	孔子の談話から正確な学習の真義、態度や方法を学ぶこと。
	TC③	孔子の言論及び知恵を体得すること。
	TC④	積極的な態度で学問を追求したり人生の課題に向き合ったりし、賢い人に会ったらよい手本として見習うこと。
	TC⑤	「三人行必我有師」というのは理屈のことなのか、「二人行」に変えてもいいのかを考えなさい。
	TC⑥	「三人行必我有師」を読んで他人の長所と短所に気づく方法を考えなさい。
	TC⑦	学習は我々を成長させ、我々の見聞・知識を開拓し、我々を穩健・確実な人生に導いていく。では、なぜ孔子は続いて学習したり互いに切磋琢磨することの出来る友達がいたりするのは嬉しいことだと考えているのか、学習の経験から考え方を述べよう。
	TC⑧	『論語』の中では、孔子が学習に言及した文章がまだたくさんある。さらに二三編を見つけ出してあらすじを説明しよう。

表6 日本における教科書の学習手引き

教科書	分類	学 習 手 引 き
学 図 (A)	JA①	「成長と共に」「深まる心」「行動する心」の文中から、次のような点を出し合おう。 ①今の日本でも使われている熟語 ②今の日本に通用する考え方 ③自分の生活に照らして考えさせられたこと
	JA②	それぞれの孔子の言葉はどんな人物に対してどのような場面で言われた言葉か、想像しよう。 ①「行動する心」 ②「深まる心」の二つ目 ③その他
	JA③	繰り返し音読して、漢文訓読調に親しもう。
教 出 (B)	JB①	古文や漢文の口調に慣れる。 ・「孔子の言葉」の中から、気に入ったものを選んで、暗唱してみよう。
	JB②	古文と漢文の共通点や相違点に気づく。 *日本の古典作品と中国のそれとは、非常に強い結びつきをもっている。ある時代の日本では、漢文や漢字の知識のみが正しい知識とされたこともあった。ここでは、「平家物語」と「論語」を声に出して読み、その共通点や相違点を探ってみよう。 ・二つの作品を声に出して読み、気づいたことをノートに書いてみよう。 ・二つの作品は、言葉の響き、リズム、使われている語句などにおいて、どのような違いがあるか、具体的な表現をあげて、説明してみよう。
	JB③	当時の人々の考え方を知る。 ・「平家物語」と「孔子の言葉」を通して読み、気づいたことを発表し合ってみよう。 ・「平家物語」や「孔子の言葉」が現代の我々へ投げかけている課題を読み取ろう。
三省		広がる読書（資料編25）
東 京 (C)	JC①	漢文特有の言い回しに注意して朗読しよう。 *書き下し文を参考にしながら、漢文を読んでみよう。 ・曰はく、「……。」と ・（為る）べし。 ・「思はざれ」ば則ち
	JC②	古人のものの見方や考え方をとらえよう。 *孔子の言葉に当てはまるような出来事を思い浮かべてみよう。
光 村 (D)	JD①	次のような、漢文特有の言い回しに注意して、書き下し文を繰り返し音読しよう。 ・曰はく、「……。」と。（会話の引用） ・「思はざれ」ば則ち（原因・結果） ・「施すこと」なかれ（禁止）
	JD②	「論語」は短い言葉の中に、人間の生き方についての鋭い感覚や深い思索が表れている。それぞれの言葉がどのような考え方を示しているかを読み取ろう。
	JD③	四つの言葉の中で気に入ったものを選び、暗唱してみよう。

表7 中国における教科書の学習手引き

教科書	分類	学 習 手 引 き
人 教 (A)	CA①	<p>注釈を見たり辞書を引いたりして、以下の文句を現代漢語に訳し、下線の引いてある言葉の意味を説明しよう。</p> <p>①学而時習之、不亦説乎 ②吾日三省吾身 ③温故而知新 ④学而不思則罔、思而不学則殆 ⑤士不可以不弘毅 ⑥已所不欲、勿施於人</p>
	CA②	これらの文章を通して人生修養について学習し、熟読することで自分の人生体験に繋げ、意味を深く吟味して体得すること。
	CA③	「已所不欲、勿施於人」は他人に接して世に生きる際に実行すべき基準として、儒教からの教えの中で最も初めに提唱されたものである。これに対して、異なる見方があった。自分の生活体験をふりかえり、みんなで話し合おうー「已所不欲、勿施於人」をどうとらえるか？
	CA③	全文を暗記し、文章の中にある四字熟語、格言や警句をノートに写し、朗読を練習し、文章の表現技術を学習する。

表8 韓国における教科書の学習手引き

教科書	分類	学 習 手 引 き
D O N G (A)	KA①	<p>－1 成語の意味を理解し、生活に活用できるようにする。格言・ことわざ、名言・名句を訳し、その教訓を理解する。簡単な詩句を訳し、意味を理解する。すでに学んだ漢字語が漢文の文章の中で活用されているのが分かる。</p> <p>－2 成語の構成や漢文文章の基本構造を理解する。漢文・文章の基本的構造を理解する。</p> <p>－3 漢文の中に含まれている先祖たちの精神を継承し、発展させるきっかけをつくることができるようにする。</p> <p>－4 簡単な漢文文章を読んで解釈できる。</p>
		<p>－1 四字熟語を学び、生活に活用できるようにする。故事成語、格言・ことわざを訳し、その意味を理解する。格言の真義を知り活用する。いろいろな音と意味を持った漢字を身に付ける。</p> <p>－2 成語の構成や漢文文章の構造を理解する。助詞の使い方を理解する。文章の「拡張構造」を理解する。</p> <p>－3 成語を通して先祖たちの生き方の知恵を理解し、これを継承・発展させる方法を考えてみる。</p>
	KA③	<p>－1 漢字を学び、生活の中で活用できるようにする。様々な漢字の使い方を学び、成語と短文の読解に活用する。「立志」と「修学」に関する漢字語と短文を身に付け活用する。漢字の使い方に対して理解する。</p> <p>－2 成語の構成を学び、読解に活用する。</p> <p>－3 成語と故事成語の意味を理解し、その中に含まれている先祖たちの生き方を理解し、その教訓を見習う。</p>
		<p>－1 様々な助詞を学び、文章の読解に活用する。主語・述語・目的語と主語・述語・目的語・補語の拡張構造を学び、文章の読解に活用する。不定形の文章を学び、文章の読解に活用する。「主語・述語・目的語の拡張構造」に対して理解する。</p> <p>－2 簡単な文章を読んで訳す能力を身につける。</p>
	KA④	

D O N G (A)		-3	先祖たちの教えを通して正しい生き方の力を養う。「修身」の重要性を学び実践する。
		-4	古典を理解し、価値を大切にする。
	KA⑤	-1	様々な漢字を学び、文章の読解に活用する。ことわざと格言の意味を学び、先祖たちの知恵を理解する。感嘆形の文章を身につけ、文章読解に活用する。
		-2	様々な文章の形式を学び、文章の読解に活用する。
		-3	仁義礼智の四徳に関連する文章を学び、私たちの心構えを振り返ってみる。先祖たちの教えを見習い、正しい価値観を持つようにする。仁義礼智に関連した文章を学び、生活の中で実践する。
	KA⑥	-1	同上
		-2	
		-3	
	KA⑦	-1	様々な漢字を学び、文章の読解に活用する。ことわざと格言の意味を学び、先祖たちの知恵を理解する。限定型と受身型の文章を身につけ、文章読解に活用する。
		-2	様々な文章の形式を学び、文章の読解に活用する。
		-3	仁義礼智の四徳に関連する文章を学び、私たちの心構えを振り返ってみる。先祖たちの教えを見習い、正しい価値観を持つようにする。聖賢たちの教えを学んで見習う。

## 注

- (1) 『新版日本語教育事典』によると、「漢字文化圏」とは、普通挙げられるのは、中国（香港含む）・台湾・ベトナム・朝鮮半島・日本とこれらの地域の言語を話す人々が集団で住んでいる地域である（社団法人日本語教育学会（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店 PP. 399-400）。本資料では台湾・日本・韓国・中国を検討対象にする。
- (2) 日本と韓国では漢文という名称が用いられているが、台湾と中国では現代文の対義語である「文言文」という名称が用いられている。
- (3) これまでの「課程標準」では小・中学校が分かれて定められていた。中学校の場合においては、1972に「国民中学課程標準」が出されて以来1983, 1985, 1994年度の三回の改訂を経て、2003年の小中一貫の「国民中小学九年一貫課程綱要」に移行した。
- (4) 黄政傑（1995）では「本土化」の概念を「本土を教育の中心とすることであり、教育に関する一切の措置を本土の状況と需要に合わせ、本土と関連付け、本土の文化を通して選択・応用することによって、本土において役立つものとする」というように定義づけている（『教育本土化的理念』『北県教育』第7期 p.26）。また、山崎直也（2009）によると、これまで権威主義体制下における公民教育の「中国化」を一変して、1990年代の「本土化」教育の進行により、公民教育においては台湾土着の庶民文化と中国の伝統文化を等しく包含する中華文化のイメージが成立した（『戦後台湾とナショナル・アイデンティティ』東信堂）。国語科の場合においては、蔡美恵（2006）によると、近年の国語教科書において取り上げられた文章は台湾の本土作家によるものや台湾の風土を描くものが増えた（『台湾中学国文教学研究』

広東教育出版社)。

- (5) 新しく改訂された「普通高級中学課程綱要」に反対する団体の行動宣言によると、「①国語の時間時数が週に五コマから四コマに変更されることに反対」「②文言文の教材数の割合が削減されることに反対」「③『中国文化基本教材』(『論語』『孟子』)が必修から選択科目に変更されることに反対」という主張が示されている(李素真編(2005)『二十堂名家的国文課』商周出版)。
- (6) 教育部(文部科学省に相当する)から出された教育令によれば、2010年度の一年生から次第に実施されていく「普通高級中学課程綱要」(2006年度から実施された「普通高級中学課程暫行綱要」を改訂したもの)の中に、国語科と歴史科は実施に入ることができず、別の案が出されるまで、しばらく「普通高級中学課程暫行綱要」に依拠することと告示されている。「97課綱公告」国立編訳館 高級中学教科用書審定資訊網ホームページ  
<http://dic.nict.gov.tw/~high/dic/Binder.pdf?PHPSESSID=06bdeb1d514c369c3a3034015b4fbd56>
- (7) 柯慶明(2007)「98高中國文課綱修訂要點及其理念(精簡版)」文訊 P.13-21
- (8) 中国の場合は、1966年～1976年の文化大革命の十年間は教育崩壊の状態にあったため、本調査ではこの期間を扱わないことにする。
- (9) 台湾の教科書に対する研究調査の中で最もよく取り上げられる3社の中学校国語検定教科書である。例えば、蔡美惠(2006)『台湾中学国文教学研究』広東教育出版社、袁紫嵐(2009)「国中国文教科書中台湾文學作品編選之内容分析」国立花蓮教育大学 国民教育研究所 修士論文などの研究が見られる。
- (10) 教科書研究センターの調査報告によれば、中国では1986年から人民教育出版社による独占的な教科書編集を検定制に変更し、1993年から教科書が複数出版されるようになったが、現在も依然として多くの地域と学校が選択しているのは人民教育出版社の教科書である。(財団法人教科書研究センター(2006)『中国の教育課程改革と新しい教科書—歴史教科書を中心に—最終報告』財団法人教科書研究センター)
- (11) DONGWHA 社を調査対象にする理由としては出版社別占有率において、1位を占めているためである。DONGWHN 社ホームページ <http://www.dhbook.co.kr/>
- (12) 例えば陳宛非(2010)『国民小学国語第六冊【六年級下学期】』翰林出版社(現行の小学校国語教科書)では王之渙(登鶴雀樓)、朱熹(觀書有感)などの漢詩が取り上げられている。
- (13) 国文学科中心ホームページ <http://chincenter.fg.tp.edu.tw/cerc/98ke.php>
- (14) 角野栄子、小森茂ほか(2010)(平成17年検定済み)『新編 新しい国語6下』東京書籍
- (15) 課程教材研究所 小学語文課程教材研究開発中心(2003初版、2008年第7刷)『義務教育課程標準実験教科書 語文 三年級上冊』人民教育出版社
- (16) 現行の学習指導要領(中華人民共和國教育部(2003)『普通高中語文 語文課程標準(実

験)』人民教育出版社)では必修課程として「語文1」から「語文5」まであり、選択課程としては「系列1」(詩歌及び散文)、「系列2」(小説及び演劇)、「系列3」(新聞及び伝記)、「系列4」(言語文字の応用)、「系列5」(文化經典読本)がある。それぞれの教科名称は各学校で自主決定の形を取っている。

- (17) 人民教育出版社 課程教材研究所 中学語文課程教材研究開發中心 北京大学中文系 語文教育研究所(2006第2版, 2008第14刷)『普通高中課程標準實驗教科書 語文 選択 先秦諸子選読』人民教育出版社, 人民教育出版社 課程教材研究所 中学語文課程教材研究開發中心 北京大学中文系 語文教育研究所(2006第1版, 2008第5刷)『普通高中課程標準實驗教科書 語文 選択 中国經典文化研読』人民教育出版社
- (18) しかし、「裁量学習」の時間(総合的な学習の時間に相当)においては漢字を教える場合もある。
- (19) 『論語』教材については高校教諭の研究も見られる。例えば、孫仁道(2008)「『高等学校漢文教科書に収録された論語の解釈に対する研究』」『漢域漢文学会』PP. 187-224)によれば、『論語』教材は断片的に取り扱われており、文章全体に対する系統的な認識に欠けているため、教師が指導する際になんらかの困難が生じるという。
- (20) 「九年一貫」では「分段能力指標」が定められている。それは学習段階別と能力別に基づいて定められたものであり、教科書の編集や指導案の作成などの方針になるものである。なお、学習段階は三段階(中学校1~3年生は第三段階にあたる)に分けられている。能力については国語科では能力指標項目はそれぞれ「A: 注音符号应用能力」「B: 聞く能力」「C: 話す能力」「D: 漢字の認識能力と書写能力」「E: 読む能力」「F: 作文能力」という6項目の構成になっている。
- (21) 董金裕ほか(2009)『国民国文教師手冊 第一冊(1上)』康軒文教事業
- (22) 以下、全文を引用する(筆者古による訳)。「①読む力を育ち、語文の基本能力を高める: 文章の内容・あらすじを理解し、文字・詞句の形を熟知、基本文種の特徴を知り、さらに作品の創作特徴、修辭技術や意味を鑑賞する。②よい読書の意欲、態度、習慣をつけることを重視する: 自分が気に入る、自分にふさわしい読本を選択し、自分の読書計画を立て、図書室の資源を善用し、読書の意欲を催し、感想を分かち合う態度や習慣をつける。……④様々な読解方略を学習し、読書能力を発展する: 基本的な読みの理解の技術及び異なる文種の読みの方法を学習し、読みの範囲を拡大する。教材を通して読解方略を理解し、読書能力を促進する。巧みに読解方略を応用して読む速度を調整し、自分の読書方法を構築する。⑤言語の使用場面を理解して精確に文字を応用する: 言語の使用場面の読みに合わせ、異なる言語の使用場面の中での精確な使い方を知る。文字と文脈の間の転換を理解し、読んだ情報を正確に表現してコミュニケーションをする。……⑦読んだ内容を整理し、問題解決の思考に転換する: 読みの過程の中で、資料を収集・整理・分析する能力を獲得し、主体的に探索・研究し、問題解決の能力に転換する。」(陳建明(2000)「閱讀能力指標建構的基本精神與特色」花

蓮師院刊 第32集 P.14)

- (23) 韓国以外に、台湾及び中国も単元の「学習手引き」を参照した。ただ、日本の教科書の場合には単元の「学習手引き」が設けられていないため、教材ごとに書かれている「学習手引き」のみを参照した。
- (24) 吉田賢抗(1978)『新釈漢文大系 第1巻 論語』明治書院
- (25) 三省堂では『論語』教材が資料編に編集されているため、学習手引きは書かれていない。